

教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和4年7月7日(木) 15:05
小倉北区役所 西棟5階 504会議室

1 開 会

2 案 件

(1) 議案

議案第12号「北九州市教職員身体検査審議会委員の委嘱について」
(給与厚生担当課長)

議案第13号「北九州市学校給食審議会委員の委嘱について」
(学校保健課長)

議案第14号「令和5年度に北九州市立高等学校で使用する教科用図書の
採択について」
(学校教育課長)

議案第15号「令和5年度に北九州市立特別支援学校及び特別支援学級で
使用する教科用図書の採択について」
(特別支援教育課長)

(2) 協議

協議①「人事について」
(労務争訟担当課長)

(3) その他報告

その他報告①「令和4年6月北九州市議会定例会の概要について」
(総務課長)

3 閉 会

教 育 委 員 会 （ 定 例 会 ）

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 開催年月日 | 令和4年7月7日（木） |
| 2 | 開催時間 | 15:05～18:00 |
| 3 | 開催場所 | 小倉北区役所 西棟5階 504会議室 |
| 4 | 出席者 | (教育長) 田島 裕美
(教育委員) シヤルマ 直美 大坪 靖直 津田 惠次郎
竹本 真実 郷田 郁子 |
| 5 | 事務局職員 | 教育次長 古小路 忠生
総務部長 小杉 繁樹
教職員部長 高松 淳子
学校支援部長 春日 伸一
学校教育部長 高橋 英樹
次世代教育推進部長 澤村 宏志
総務課長 久保 慶司
企画調整課長 浜崎 善則
特別支援教育企画担当課長 前田 孝二
教職員課長 立花 昭一
労務争訟担当課長 野口 浩史
給与厚生担当課長 田中 満英
学事課長 青柳 祥二
学校保健課長 中山 賢彦
施設課長 江藤 博明
指導企画課長 奥村 和美
学校教育課長 藤井 創一
生徒指導課長 有田 勝彦
安全教育担当課長 高宮 滋
学校支援担当課長 山中 孝一
特別支援教育課長 小西 友康
教育情報化推進課長 赤瀬 正信 |
| 6 | 書 記 | 総務課庶務係長 増田 真二
総 務 課 水摩 明子 |
| 7 | 会議の次第 | 別紙のとおり |

教育委員会(定例会)会議録(令和4年7月7日)

1 開 会

15:05 田島教育長が開会を宣言

2 会議録署名委員の指名

田島教育長が会議録署名委員に、津田委員と竹本委員を指名。

以下の案件を非公開にすることを議決

・協議①「人事について」

3 案 件

(1) 公開案件

議案第12号「北九州市教職員身体検査審議会の委員の委嘱について」

本議案の提案理由を給与厚生担当課長が説明。

[提案理由要旨]

北九州市医師会推薦の委員が退任し、後任の委員を委嘱するため、付議するもの。

シャルマ委員／委員の中で、精神科医の割合が多い。

コロナの影響で、先生同士の繋がりや、支え合いの機会もここ2年減ったと思う。令和2年度から令和3年度、精神的に不調になる先生方が増加したか、教えていただきたい。

給与厚生担当課長／令和3年度に病気休職になった教職員は53人、そのうち精神疾患による者が43人、率にすると81%であるため、精神科医が多くなっている。

令和2年度は、休職者が43人、そのうち精神疾患による者が32人である。よって、令和2年度と3年度を比べると、32人から43人と、増加している。精神疾患による休職者は、令和元年度は27人であり、最近少しずつ増えてきている状況にある。

ただ、これまで一番多かったのは、平成22年度の56人である。

その後、10年間かけて半数程度まで減ったが、ここ2、3年は増えている。

原 案 可 決

議案第13号「北九州市学校給食審議会委員の委嘱について」

本議案の提案理由を学校保健課長が説明。

[提案理由要旨]

北九州市学校給食審議会委員の任期満了に伴う全改選のうち、北九州市医師会推薦委員の委嘱について、付議するもの。

原 案 可 決

議案第14号「令和5年度に北九州市立高等学校で使用する教科用図書の採択について」

本議案の提案理由を学校教育課長が説明。

[提案理由要旨]

令和5年度に北九州市立高等学校で使用する教科用図書の採択について、付議するもの。

シャルマ委員／情報ビジネス科の教科書について、お尋ねする。

1学年使用の地理歴史・歴史総合の教科書に「わたしたちの歴史 日本から世界へ」が採択されているが、「歴史総合」も非常に優れた教科書として、二重丸の評価になっている。

また、1年生の理科の教科書に「科学と人間生活」が選定されているが、2社とも同等の評価になっている。

この2冊の教科書について、どのような基準で選定されたか、お尋ねしたい。
学校教育課長／まず、地理歴史・歴史総合についてだが、評価の観点だけで見ると、どちらも甲乙付け難いため、このような評価になったが、右側の「選定理由」に、その差を示している。

昨年度に比べ、ICTの環境が整ったため、「ICTを活用しながら授業ができる」という観点と、「先生方がICTを使って授業を行いやすい」という観点で評価している。

また、こちらの教科書は、例えば、「自由貿易と保護貿易について、歴史的な出来事と関連付けて考えることができるか」といった、今の生活に繋がるようなテーマの投げかけもある。

そのような点から、「わたしたちの歴史 日本から世界へ」のほうが優れていると判断し、選定した。

また、理科についてだが、こちらも、非常に甲乙付け難い内容であった。

しかし、先ほど申したように、「ICTを活用しながら授業がやりやすい」という観点と、「実際に写真やモデルが多く、イメージしやすい構成になっている」という観点で評価している。

教科書の中の本文と、そこで説明されている図、資料、番号等が、しっかり明記されており、「生徒が自分で関連付けながら学びやすい」と判断し、選定した。

郷田委員／甲乙付け難い場合、どのような形で最終結論を出されるか、その仕組みについて、教えていただきたい。

学校教育課長／まず、評価の観点については、「差をつける」というよりも、「その教科書自体がこの観点から見てどうか」という点で評価をしている。

最終的には、2社を比べて、同じ二重丸でも細かい差を見て、「子どもたちの理解のしやすさ」、「授業の場での活用のしやすさ」を総合的に判断している。

郷田委員／もし、半数半数で委員の意見が分かれた場合、どのような経緯で最終結論を出されるのか。

学校教育課長／高校の場合は、全職員で選ぶのではなく、教科ごとに教科書を割り振っていくため、その教科の先生方が話し合い、合意を見出すような形で結論を出している。

郷田委員／承知した。

原 案 可 決

議案第15号「令和5年度に北九州市立特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書の採択について」

本議案の提案理由を特別支援教育課長が説明。

〔提案理由要旨〕

令和5年度に北九州市立特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書の採択について、付議するもの。

竹本委員／66ページの2番目の項目で、「採択に当たっては、北九州市の地域的特性と児童生徒の実態等を考慮する」とある。

学校や児童生徒の実態に即して、子どもたちのこともよく考慮した内容となるように、十分協議がされていることは大変よく分かった。

ただ、「北九州市の地域的特性」という部分に関して、どのようなところに考慮されているのかを、もう少し具体的に教えていただきたい。

特別支援教育課長／教科書は、各自治体において採択する。

教科書展示会などの機会に、学校の先生方にも教科書を見ていただき、多様な目で、学校現場の先生方のご意見を頂戴しながら採択しており、そのような点が地域的な選択の特性になると考えている。

学校教育部長／一般図書には当てはまらないところも多少あるが、地域的特性という点で言うと、例えば、「本市にゆかりのある教材があるか」など、「本市の子どもたちにより身近な教材を取り上げている」という視点からも選定していると捉えていただきたい。

竹本委員／特別支援学校の場合、地域に根差した生活は自立を検討する上で大切な観点だと思うため、しっかりと考慮しているということで安心した。

また、一般の方からのご意見が何かあれば、ご紹介いただきたい。

特別支援教育課長／本年度の展示会において、市民の方から意見票をいただいている。

いくつか紹介すると、「展示した図書については、大変見やすく、非常に感じのよい教科書がたくさんあり、授業が楽しく受けられそうな印象を受けた」「毎日持ち運ぶものもあるため、算数、国語、音楽はA5サイズにしてほしい」「見やすさよりも、普段の使いやすさを重視してほしい」というご意見をいただいている。

シャルマ委員／説明を聞いて、一人ひとりの子どもに合った教科用図書を選定されていること、そこに、特別支援教育に携わる先生方の専門性が活かされていることが分かった。

43ページと44ページに、中学校の特別支援学級及び中学部・高等部特別支援学校で使われる教科書を示されているが、教科名の前に、「くらしに役立つ」や「ひとりだちするための」という言葉がついているものが多く見受けられる。

これだけ選ばれているということは、その教科書の内容が非常に学習しやすいものになっているのではないかと感じる。

特に、卒業後、「ひとりだちすること」を目指した内容になっているだろうと、題名から想像しているが、具体的に教えていただきたい。

特別支援教育課長／委員ご指摘のとおり、43ページの「くらしに役立つ」と、44ページの「くらしに役立つ」は、同じ図書である。

制度上、小中学校で採択できる図書として、例えば、「くらしに役立つ国語」は、中学生が学ぶのにふさわしい学習内容が網羅されており、このような図書を小学生が使うことは、学習内容が高度であるため、学年を限定して、採択できるようにしている。

ただ、実情としては、現在、中学校の特別支援学級においては、検定教科書を使う機会が非常に多く、学習内容によっては、下の学年の教科書を使うことも多い。

教科書は非常に幅広い内容で、系統的に学習内容を示されているが、一般図書は、生活に根付いた学習内容が具体的に示されており、学んだことがすぐ実生活に役立つように編集され、コンパクトにまとめられているため、大変分かりやすい内容になっている。

今後も、学校の状況も把握してまいりたい。

原 案 可 決

その他報告①「令和4年6月北九州市議会定例会の概要について」

総務課長が報告。

[報告要旨] 以下の項目について報告。

令和4年6月北九州市議会定例会の概要について、報告するもの。

シャルマ委員／医療的ケア児を含む特別支援教育に関して、4人の議員から質問があり、市民の関心が高いと分かった。

また、18ページから19ページに、本市の地道な取組みが紹介されており、このような取組みが評価されていることを嬉しく思った。

1点質問だが、30ページから31ページに書かれている「GIGAスクール運営支援センター」は、どのような機能を活かすセンターなのか、教えていただきたい。

教育情報化推進課長／現在、ICT支援員が月に数回学校を訪問している。

それ以外に、端末に不具合が起きた際、ヘルプデスクによる電話対応もしている。

「GIGAスクール運営支援センター」では、これを一本化し、さらに、家庭からの相談にも電話等で対応したり、学校や家庭からの問い合わせに対して、コンピューターの遠隔操作で対応することとしている。

また、どうしても必要な時には学校訪問し、サポートすることとしている。

このような総合的な支援を、国の補助金を活用し、センターの運営支援に使っていききたい。

竹本委員／33ページのスクールカウンセラーによる全員面接についてだが、カウンセラーによる全員面接は大変素晴らしい取組みで、ありがたいと感じている。

ここにあるとおり、SOSの発信の仕方や、身近な誰かに頼ることが解決に繋がるため、とてもいい計画になっていると思う。

ただ、分かっているけどできないのが中学生だと思う。

私も最近、中学校のトラブルを耳にするが、こじれてから相談する傾向があると感じているため、子どもたちが普段から相談できる機会を設けるなど、検討していただきたい。

生徒指導課長／中学校では、全員面接は行っていないが、必ず学期に1回は「生活アンケート」のような形で相談できるようになっており、アンケートから気付いたことについて、必要があれば担任やスクールカウンセラーとの面接を行う環境も考えている。また、夏休み前に子どもたちにカードを配るなどして、相談体制を広げたいと思っている。

竹本委員／どうしても面接のハードルを下げるのが難しくなるため、誰でも気軽に相談できる環境をより充実させていただきたいと思う。よろしく願います。

田島教育長／「ハードルを下げる」という貴重なご意見を受け止めて、今後、我々も頑張っ
てまいりたい。

報 告 終 了

(関係者以外退出)

(2) 非公開案件

協議①「人事について」

本議案の提案理由を労務争訟担当課長が説明。

[提案理由要旨]

北九州市立学校に勤務する職員に対して、懲戒処分を行うため協議するもの。

協 議 終 了

4 閉 会

18:00 田島教育長が閉会を宣言